き続き粘り強い運動が必要であり、組合員の皆様のご理解と、なお一層のご支援をお願いしたい。

平成25年度は、購買事業において消費税の増税を前に、駆込み需要による供給の増加があったものの、信用事業や共済事業が、厳しい事業展開を余儀なくされるなかで、計画を上回る4，153万円の当期剰余金を計上でき、引き続き出資配当を提案することができた。

平成26年度は、農業・農協をめぐる情勢が大きく変わり、JAの自己改革が求められる中で、役員・職員を含めた事業執行体制の見直しを行っており、この7月より4部体制へ移行し、組合員の期待に応えられるよう事業改革を進め、組合員や地域の利用者との信頼関係を強固にし、「信頼」され「貢献」できるJAづくりに邁進したい。」と挨拶しました。

その後、永年勤続表彰や来賓祝辞が行われ、清水博文さん（二ツ井地区）を議長に議事が開始し、全5議案を含む全ての議題が、原案通り承認されました。

◎平成25年度決算

自己資本増強を図るため、出資金造成に取り組んだ結果、出資金の期末残高は21億6，289万円となり、自己資本の期末残高は27億8，322万円（前年度対比7，670万円増加）となりました。しかし、算定基準が見直されたことから、自己資本比率は14・72％となり、前年度より0・64％減少となりました。

また課題となっている不良債権は、米価の引下げによる農業収入の減少などが影響し、若干の増加となり不良債権比率は3・73％となり、前年度より0・54％増加となりました。

経営収支では、農業機械をはじめ購買事業が消費税増税を前に順調に推移したことや、事業直接費の削減や事業管理費の節減に努めた結果、当期剰余金は4，153万円（前年度対比4・3％減少）を計上しました。

◎各事業の質向上を図る

基幹作物の稲作では、品質・収量は平年並みとなりましたが、全量集荷推進運動を展開した結果、集荷数量251，173・5俵と計画対比92・5％となりました。販売高は過剰在庫の関係や概算金の低下の影響により、34億4，183万円で計画対比82・8％となりました。

青果物では、春先の低温での定植の遅れによる生育の遅れや停滞もありましたが、生産者の所得向上を第一に考え有利販売に努めてまいりました。白神農産物の消費拡大のため、トップセールスと併せ、様々なイベントでのPR活動等を行いましたが、青果物全体では、出荷量4，343t、販売高13億5，941万円、計画対比92・2％となりました。

信用事業では、組合員・地域住民に安心・安全を届け、愛されるJAバンクをめざし、「農業とくらしに貢献し、選ばれ、成長し続けるJAバンク」の実現に向け、定期貯金の特別金利キャンペーンや各種ローンのキャンペーンを実施し利用者基盤の維持と拡充を図りました。

また、年金受給者の交流会として、第1回全県グラウンドゴルフ大会が開催され、当JAから勝ち抜いた10名が参加しました。

共済事業では、「ひと・いえ・くるま」の総合保障と、LAによる3Q訪問活動を展開して、豊かで安心して暮らすことのできる地域づくりに取り組んできました。

地域貢献活動では、超神ネイガーによる交通安全教室を3幼稚園・保育園で開催しました。

また、学童野球大会では、当JAの二ツ井野球スポーツ少年団が全県優勝しました。

平成25年度もJA共済はより多くの方にご利用頂いたことで、支払件数で4，912件、27億3，935万円もの共済金（満期共済金を含む）をお支払いし、組合員・地域利用者の方々のお役に立つことができました。

◎質疑応答並びに要望

議事中、総代から質問された内容及び要望その回答について掲載致します。